

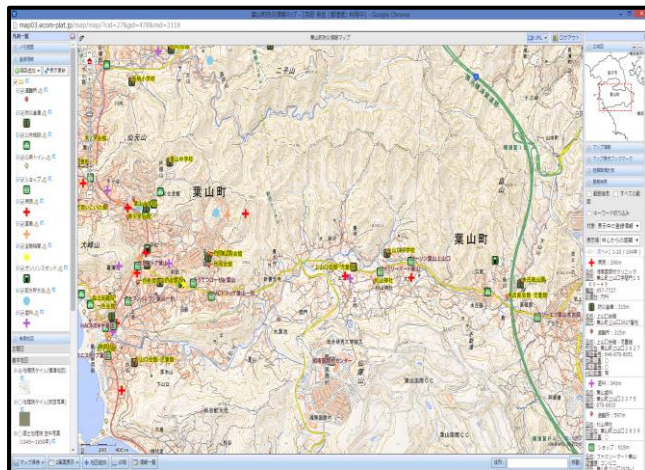
防災情報を網羅したポータルサイトを作っています

葉山災害ボランティアセンターポータルサイト

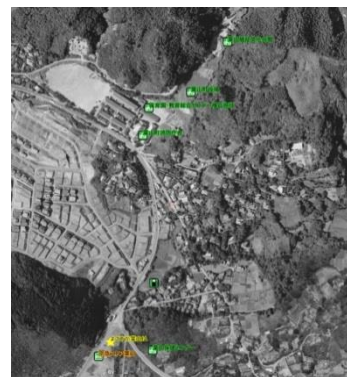
国立研究開発法人防災科学技術研究所(防災科研)の支援を受けて、防災科研が提供するeコミュニティプラットフォーム上に葉山の防災情報ポータルサイトを構築しました。

充実した防災マップがポータルサイト内で見られます

町の避難所、防災倉庫、貯水池、公共施設、公衆トイレ、ショップ、GS、病院、薬局、金融機関などをマップ上に選択して表示する事ができます。マップも地理院地図やグーグルマップ、明治や昭和の過去の地図と重ねて表示もできるすぐれものです。



地図上に表示させる情報は「はやままちあるき」などを通じて日々更新させていきます。みなさんも一緒に葉山の防災情報を充実させていきませんか？



こんなこともできる！

1960年代の航空写真に現在の町の防災情報を重ねて表示させてみたものです。開発が進む中で町の地形がどのように変化していったのかが解ります。

HSVN ニュース

葉山災害ボランティアネットワーク

2016年春号



鹿沼・常総に行って解ったこと。

災害は、忘れないうちにやってくる！

最近はこの風に言うそうです。確かにそんな事も感じるくらい毎年毎年大きな災害が起きています。

ホントにある日突然やってくる。

復旧は時間がかかるほど元に戻りにくくなる。捨てなければいけない廃棄物は1軒あたりトラック10台でも足りない！

床下に入った泥は役場も消防も警察も片付けてくれない！

行政のできる事は限られている。

行政・社協・民間（ボランティア）の事前の連携確認が必須

助けを求めないと、誰も助けに来てくれない。

誰かに助けてもらいたい。誰かを助けたい。

その気持ちを繋ぐのが 災害ボランティアセンター

現状は平常時の情報ポータルサイトという位置づけですが、今後実際に災害が起きた時にどのような情報を発信していくのか？どのようにサイトを設計したら良いのか？の検討をおこなっていきます。



現在、ポータルサイト・防災マップの編集をお手伝いいただける方を募集しております。ご興味のある方は hsvn77@yahoo.co.jp またはHSVNのフェイスブックページからお問合せください。

葉山災害ボランティアネットワーク(HSVN)

http://ecom-plat.jp/ictkanagawa_sv/index.php?gid=10132

フェイスブック <https://www.facebook.com/hsvn77>

メールアドレス hsvn77@yahoo.co.jp 入会随時受付中



常総市の災害ボランティアセンターで何が起こっていたのか？

先日ある会議を傍聴する機会がありました。会議は昨年秋、常総市の水害被害の際に災害ボランティアセンターに張り付いて活動をつぶさにご覧になった全国社会福祉協議会の方と、主にITを駆使した情報支援を行った国立防災科学研究所の研究員の方のお話を聞き、神奈川県内の市町村の行政職員と情報共有を図るもので、前半の講演の部分だけ傍聴させてもらったものです。実は、常総の災害ボランティアセンターの運営はあまり上手くいっていないようだ、という話は風のうわさで聞いていて、実際何がどのようにうまくいかなかったのかを知りたいと思っていたので、タイムリーな傍聴となりました。

「被災地の状況と災害ボランティアセンターの運営、関係機関との連携の在り方」
園崎秀治さん
(社会福祉法人)全国社会福祉協議会
全国ボランティア・市民活動振興センター副部長

お話は多岐にわたり全てをお伝えするのは難しいのですが、常総市では想像を絶するような事態が起きていたようです。正直言ってちょっと衝撃的でした。園崎さんのレジュメに箇条書きで挙げられた項目が以下の11項目です。

1、市の面積の1/3にあたる地域が被災した。→つまり大勢の職員も被災者になり、移動のための自家用車も水没し、市役所も水没し、町の車両も殆ど水没して使えなくなるといった壊滅的な状況

2、被災住民が市外にも多く避難し、そこで長期にわたる避難生活を余儀なくされた。ピーク時35市町村避難所299所 避難者数10,390人→指定避難所も多くが水没したために各地に自主避難所が乱立し事態を把握しきれなかった

3、常総市役所が被災して、市の中核機能が麻痺した。→発電機が地下にあった。。電源使えず。。

4、それにともない、行政(常総市)による避難所対応がしきれなかった(社協・他市への丸投げ、避難所環境の劣悪化)→2週間後の避難所は、東日本大震災後2週間の状態よりも過酷で悲惨なものだった

5、ゴミの収集が追いつかなかった(水害ゴミの収集・運搬・廃棄が行政の手だけではやりきれなかった)→2週間後に稼働していた回収トラックは、わずか2台しかなかった。周辺自治体に対する応援要請もなされていなかった。災害対策本部が無人の状態が続き会議すら開かれないう状態が暫く続いた。

6、罹災証明書の発行が遅れたことにより、被災者が家の修繕等、個々の復旧・復興作業にとりかかれることが大幅に遅れた

7、「県立」災害ボランティアセンターが設置された→公助の担い手であるはずの行政職員が60名もボラセンに配置されるも、運営ノウハウ不足から、無為に時間を浪費するだけであった。一方で災害対策本部が無人の状態が続き、会議も開かれないう状態が暫く続いた事。要するに行政が全く機能しなかった。

8、ブラジル人を中心とした外国人人口が4%以上にのぼり(県内1位)、日本語の読み書き・会話が出来ない避難住民が多く存在した

9、長時間水に浸かったことから、自動車が軒並みやられ、移動手段に困った

10、高速道路無料措置が行われたこと(被災地の事務負担増の問題)→証明書の発行など、ボラセンの作業量が無暗に増えてしまう事態はおかしい

11、常総市災害支援情報共有会議(通称、六者会議)がもたれたこと→これが発災前から開かれていたら、こんなに酷い事態にはならなかっただろう。発災直後は社協と民間セクターはおおむね連携はとれたが、行政との間には壁があり乗り越えられなかった。

こんな驚くべき事態が常総市で起きていたそうです。結論としてはこんな混乱を避けるためには、行政と社協と民間がそれぞれの役割をきちんと分担して、平時から連携を密にしておくという事につきますように。

大きな災害が起きた時には、地域の社会福祉協議会が運営主体となり、行政の災害対策本部と連携をとりながら、民間のボランティアやNPOなどと協力して「災害ボランティアセンター」を運営していくという事が東日本大震災以後に主流的な動きとなりました。つまり、この動きは比較的最近の流れなのですね。

今回の話を聞くにつけ、社会福祉協議会の主体者意識の高まりを強く感じさせられました。と同時に行政と社協との意識共有は恐らく地域によって相当違っているのだらうとも思うのです。常総ではそのギャップが激しかった、というより事前の意識共有がまったくなされていなかった事が混乱の原因だったのではないのでしょうか。葉山町の現状を再度問い直す必要があるのでは、とも感じました。

収穫は、各地の災害ボランティアセンターに対する全国社協からの支援体制について、その経験値・実績から来る自信をお持ちのように見受けられたことが頼もしく感じました。

『「かながわ災害救援ボランティア支援自治体ネットワーク会議」及び「かながわの災害救援ボランティアセンター担当者連絡会」合同会議』を傍聴して2月5日かながわ県民センターにて

台風18号による水害被害の復旧支援活動を行いました

鹿沼市

台風18号による、水害・土砂災害により大きな被害を受けた栃木県鹿沼市で、HSVNメンバー11名が泥のかき出し等の緊急支援活動を行いました。



行った時点の鹿沼市の被災状況は、山ぞいの流域のあちこちで土砂崩れ、洪水が発生し、被災地域が点在する状況で被災全容を把握しきれしていない状況でした。裏の山の土砂崩れで川が氾濫し自宅周辺地域に泥水が流れ込まれたお宅で、泥出し、流木/がれきの撤去、ガラス/釘/木材/畳など撤去を行いました。

Column

「社協ボラセン」と「松本ボラセン」

南相馬市の現状をお聞きするシンポジウムに参加したのですが、そこでお聞きした話です。

現在南相馬市には災害ボランティアセンターが二つあり、それぞれが「社協ボラセン」「松本ボラセン」と呼ばれているそうです。ボラセンが二つあってもおかしくはないのですが、少し問題と思ったのは、相互のコミュニケーションがあまりうまくいっていないという事を聞いたからです。

まず思ったのは、ニーズの出し側が混乱しないだろうか？という事です。原因は活動方針の違いで、発端となったのがチェーンソーを使う活動依頼を受け付けるか否か、という事だそうです。

現状この地域に昔から多くあった屋敷林の伐採の依頼が多いのだそうです。この作業は確かにチェーンソーを使わないとできないのでしょう。一方でチェーンソーの使用はちゃんと講習を受けて実績を積んだ人ではないと危険である、という理由で多くのボラセンは依頼を断る事が多い。ところによってはマニュアルで一律に全て断るという方針を出しているところもあるようです。

なかなか難しい問題だと思うのですが、こういう話を聞くと、実際の運営ができるまでには、まだまだ話を詰め切っていない事柄は多いのだと思う次第です。

常総市

栃木県常総市に向けた「被災地支援ボランティアバスツアー」にHSVNメンバー7名が参加しました。



逗子市、葉山町の社会福祉協議会にて、常総市被災地支援の日帰りボランティアバスツアーを実施しました。

- 10/20 6:30ー20:00 参加者25名
- 常総市災害ボランティア参加
- 行先は常総市災害ボラセンター石毛地区サテライト

これでバッチリ！
泥かき装備

3月の活動予定

◆3月11日 葉山語り場「震災から5年ーあの日を忘れない」
今年は東日本大震災から5年目の節目の年となります。一方であの未曾有の災害の記憶が早くも風化の危機にさらされているのも事実です。5年目となる3月11日を機に、再度「あの日を忘れない」ための語り合いの場を設けたいと思います。お茶っこしながら、あの日のこと、それからのこと、これからのことを語り合いましょう。
3月11日(金)13:00～18:00元町会館中会議室にて
発災時間に黙とうをおこないます。被災地の商品の販売なども行います。
<http://bit.ly/1KwC1TG>

◆3回目となる「葉山町歩き」を行います。今回は下山口を探検します。
町歩きに先立って下山口のミニ地図訓練をおこないます。
詳しくは3月に入ってからご案内いたしますので、スケジュールだけ押さえておいてください。
3月19日(土)葉山語り場 ミニ地図訓練(下山口)
3月26日(土)葉山町歩き 下山口探検